

PDCA サイクルを意識した校内支援について

チームによる校内支援を進める際には、校内でケース会議を行い、教職員が同じ目標に向かって支援をすることが大切です。また、限られた時間の中で実りのあるケース会議を行うためには、児童生徒の実態について事前に整理しておく必要があります。ケース会議で検討したことについては、教職員間で共通理解を図り、計画的に支援をすることが重要ですが、ケース会議で検討した内容が目に見える形で残らないために、うまく情報が共有できないという学校の声もありました。そこで、児童生徒が達成できそうな目標や手立て、役割分担などを明確にし、支援の振り返りや評価ができるように「校内支援計画シート」を作成しましたので、ご活用ください。

PDCAサイクル



児童生徒の実態をきちんと把握することが、児童生徒を共感的に理解しようとする視点につながります。

①計画 : Plan

ケース会議

- ・ 次回のケース会議までに達成できそうな目標を設定する。
- ・ 目標を達成するための支援の手立てや、役割分担、具体的な方法などを明確にして、ケース会議で話し合った内容を記録に残す。

②実施 : DO

- ・ 教職員間で共通理解を図り、役割分担をして支援をする。
- ・ 「支援の振り返り」ができるように、活動の様子や変容などの記録を残す。

校内の共通理解

④再検討 : Action

次回の ケース会議

- ・ 現在の児童生徒の状況に合った「目標」「支援の手立て」を再検討する。

③評価 : Check

- ・ 前回のケース会議からの「支援の振り返り」を行い、目標の達成状況や、支援の手立てを評価する。

※ ケース会議の前には、児童生徒の実態を整理して目に見える形にしておく

情報の「見える化」がPDCAサイクルにつながる

ケース会議の流れ



支援の手立てを検討する前に、児童生徒が達成できそうな「目標の設定」を行うことが大切です。

(例) 本日の流れ 分 : ~ :

- | | | |
|--------------------------------------|---|----|
| ① 児童生徒の実態や、要因・背景について（説明・質問） | 【 | 分】 |
| （次回のケース会議以降は、支援の振り返りや評価） | | |
| ② 次回のケース会議までに達成できそうな「 目標の設定 」 | 【 | 分】 |
| ③ 支援の手立てについての意見交換 | 【 | 分】 |
| ④ 支援の手立ての絞り込み | 【 | 分】 |
| ⑤ 役割分担の確認、まとめ | 【 | 分】 |